

統計調査ニュース

令和6年(2024年)12月

No.457



令和6年を振り返る

総務省統計局統計調査部長

永島 勝利

都道府県・調査員の皆様におかれましては、本年も統計局所管の統計調査を円滑かつ確実に実施いただき、誠にありがとうございます。

さて、早いもので今年も残すところ1か月を切りました。この1年を筆者が重要と思う三つのキーワードから振り返ってみます。

一つ目は「お金」です。今年は大きな動きが重なりました。まず、7月3日に20年ぶりとなる新紙幣の発行がありました。給与の面では、6月に実質賃金が27か月ぶりにプラスとなるなど、賃上げが一層進みました。3月19日に日銀がマイナス金利政策を解除し、17年ぶりの利上げを行い、7月末にも政策金利を0.25%に引き上げるなど、金融政策も大きく転換されました。

二つ目は「物流」です。運送業界では残業時間の上限規制の適用が猶予されていましたが、4月から他業種と同様となり(いわゆる「2024年問題」です。)、人手不足や遅配などの問題が顕在化するとともに、郵便料金や運送料の値上げもありました。ネット通販の利用が増え、AIも進化して、便利な世の中になりました

たが、物流は人が支え続ける必要があるのだと改めて実感させられました。

三つ目は「米国」です。大谷翔平選手などの日本人選手がメジャーリーグで活躍する様子が連日のように報じられました。今年は大谷選手が所属するドジャースがワールドシリーズで優勝しましたので、最後の最後まで盛り上がりました。また、4年に1度の大統領選挙が共和党のトランプ前大統領と民主党のハリス副大統領の間で争われ、トランプ氏が次期大統領に就任することが決まりました。事前の予測では大接戦になると言われ、世論調査等に基づく予測が投票直前まで大きく報じられたことは記憶に新しいところです。

以上振り返ってきた事柄は、少なからず、客観データや公的統計と関わっています。このことから分かるように、公的統計は、ますます、私たちの暮らしや社会にとって欠かせないものになっています。来年も皆様の変わらぬ御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

目次

令和6年を振り返る	1	10月19日(土)、20日(日)に「統計データ・グラフフェア」を開催しました	5
国連アジア太平洋統計研修所「持続可能な開発目標(SDGs)のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースについて	2	第72回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定	6
統計データ分析コンペティション2024～受賞者等決定～	3	Data StaRt Award～第9回地方公共団体における統計データ活用表彰～受賞団体の決定	8
令和7年1月14日(火)リニューアル開講 「誰でも使える統計オープンデータ」受講者募集中	4	「地方自治情報化推進フェア」及び「CEATEC 2024」に出展しました! ／令和6年度 統計研修受講記	9

国連アジア太平洋統計研修所

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための 公的統計の理論と実務」コースについて

国連アジア太平洋統計研修所とは

国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）は、開発途上国の政府統計職員に対し、より高い統計の実務能力を養成することなどを目的とした、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）の地域機関です。千葉県千葉市にあり、総務省が招請国政府の協力機関となっており、1970年に日本国政府と国際連合との間の協定に基づいて設立されて以来、アジア太平洋諸国だけでなく、北米や中南米、ヨーロッパ、アフリカも含めた、世界中の政府統計職員等約3万4千人を養成してきました。

国連アジア太平洋統計研修所が実施する研修について

国連アジア太平洋統計研修所が実施する研修は、主に①日本で実施する対面研修、②海外に講師を派遣して行う研修、③オンライン研修の3つがあります。

令和6年度は、対面での研修を20コース、オンラインでの研修を11コースと合計31コースを実施又は実施中です。

このうち、①については、基幹コースである「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースを8月19日から3か月半の日程で実施しており、SIAPの講師や、日本政府職員などから、公的統計の基本や、統計手法、SDG指標の概論などについての講義が行われています。



▲ 研修の様子（令和6年度）

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースの現地研修について

本研修コースでは、日本における公的統計を実地で学習する一環として、地方自治体（都道府県）における家計調査業務を中心とした業務の実施状況等を学ぶことにより、講義等で学んだ研修内容をより具体的に理解し、自国の統計業務の改善に反映させるため、現地研修を実施しています。

令和6年度は、11月13日（水）～15日（金）の3日間にわたり、和歌山県において、県の協力の下、地方公共団体における統計業務や家計調査業務についての講義、家計調査世帯への訪問等を行いました。

◆ 和歌山県 現地研修 ◆

11月13日（水）

現地研修初日は、和歌山県企画部企画政策局長に表敬訪問を行い、県勢概要、調査統計課の業務、家計調査の

概要について、和歌山県職員から講義を受け、その後、調査統計課執務室や県庁防災施設の視察を行いました。

11月14日（木）

2日目の午前は、家計調査の調査区を視察し、家計調査世帯及び統計調査員との懇談を行いました。午後は、（株）島精機製作所を訪問後、和歌山県職員と質疑応答や意見交換を行いました。

【統計調査員及び家計調査世帯との懇談について】

統計調査員の方から調査の依頼方法について説明がなされ、研修員からは、調査を依頼する上で工夫している点や、調査依頼を断られた場合にどのように対応しているのか等について、多くの質問がありました。

また、家計調査世帯の方からは家計簿の記入方法について説明がなされ、研修員から、品目はどこまで細分化して記入しているのかなどについて質問が出ました。



▲ 家計調査区視察（世帯訪問）（令和6年度）

和歌山県職員との意見交換では、研修員の自国での国勢調査の実施方法や、和歌山県での家計調査の実施手順や調査区の詳細等について活発な意見が交わされ、交流を深めることができました。

11月15日（金）

最終日は、和歌山城を見学後、紀州漆器伝統産業会館を訪れ、和歌山県の紀州漆器の代表的技法である「蒔絵」を体験しました。

なお、3日間の現地研修を通して研修員、和歌山県から次のような声がありました。

【研修員の感想】

- ・ 統計調査員や家計調査世帯から、直接説明や体験談を伺うことができ、大変貴重な体験になった。
- ・ 日本の統計調査の手法等を実地で学ぶことができ、また、自国の調査手法と異なる部分があることに驚くとともに、自国の制度を見直す貴重な機会になった。

【和歌山県の感想】

- ・ 研修員の実直に学ぶ姿勢を見ていると、このような取組は途上国にとっては非常に大切なものと実感したところ。今後、各国の統計行政が良い方向に向かってくれることを祈念します。

統計データ分析コンペティション2024 ~受賞者等決定~

統計データ分析コンペティションは、高校生、大学生等の統計の有用性への理解と統計データの利活用拡大のため、総務省統計局、独立行政法人統計センター、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所及び一般財団法人日本統計協会の共催により、平成30年度(2018年度)から毎年度開催しており、今回で7回目になります。

このコンペティションは、高校生の部、大学生・一般の部の部門別に、SSDSE(教育用標準データセット)*を用いた統計データ分析の論文を募集し、データ分析力を活用した課題解決のアイデアを競うものです。

今年度の応募論文数は合わせて186件(昨年度151件)(内訳:高校生の部124件(昨年度79件)、大学生・一般の部62件(昨年度72件))となり、回を重ねるごとに特に高校生の部の応募数が増えており、データ分析の裾野が広がっていくことがうかがえます。論文審査会を経て選定された各賞の受賞者等は以下のとおりです。

部門・賞		タイトル	執筆者
高校生の部	総務大臣賞	食の外部化における地域特性	佐々木 万悠子さん(雙葉高等学校)
	優秀賞	福祉支援を通じた過疎化対策の提案	黒木 喬士郎さん、井上 和幸さん、高山 大綺さん、玉田 章人さん(大分工業高等専門学校情報工学科)
	統計数理賞	子供の体力・運動能力	大河内 花音さん(愛知県立一宮高等学校)
	統計活用奨励賞	医療費削減に向けたスポーツ時間増加策のデータ分析	過 目今さん(法政大学国際高等学校)
学校表彰		愛知県立一宮高等学校、大分工業高等専門学校、かえつ有明高等学校	
大学生・一般の部	総務大臣賞	COVID-19の5類感染症移行後における宿泊者数損失の要因分析	中江 美佳さん、緒方 奏土さん、山本 真大さん、佐々木 大地さん(同志社大学文化情報学部文化情報学科)
	優秀賞	合計特殊出生率の決定要因の影響はコロナ禍で変化したのか	天野 葵さん、伊藤 愛さん、神谷 珠里さん(南山大学総合政策学部総合政策学科)
	統計数理賞	日本における人口集中と経済成長の関係性—閾値回帰モデルを用いた都道府県別分析—	北岡 和真さん、上水 天翔さん、濱田 翔也さん、山内 菜月さん、山田 花帆さん(南山大学経済学部経済学科)
	統計活用奨励賞	金融資産購入経験の要因分析—金融教育、損失回避傾向、Digital Capability Indexに注目して—	NGUYEN THI NGOC ANH さん、NGUYEN THI MINH QUY さん(青森中央学院大学経営法学部経営法学科)

統計データ分析コンペティションについて詳しくはこちら → <https://www.nstac.go.jp/statcompe/>

※SSDSE(教育用標準データセット: Standardized Statistical Data Set for Education)について

SSDSEは、データ分析のための汎用素材として、独立行政法人統計センターが作成し毎年更新し公開しています。人口・世帯、経済基盤、教育、健康・医療、福祉・社会保障など様々な分野の公的統計を手軽に利用できるよう、表側に地域(都道府県又は市区町村)、表頭にデータ項目を並べた、表形式(Excel及びCSV)のデータセットです。欠測データはなく、ダウンロードしてすぐにデータ分析に利用することができます。

また、統計データの出典、単位、項目定義等、SSDSEを利用する上で必要な情報を掲載したSSDSEの解説(PDF)を併せて公開しています。

SSDSE

地域コード	都道府県	2002		2012		2022	
		総人口	世帯人口	15歳未満人口	15-64歳人口	65歳以上人口	15歳以上人口
R00000	全国	124947000	122031000	14503000	74208000	36236000	18645
R01000	北海道	5140000	5098000	530000	2924000	1688000	24873
R02000	青森県	1204000	1198000	123000	663000	419000	10941
R03000	岩手県	1181000	1173000	125000	648000	409000	18814
R04000	宮城県	2280000	2258000	258000	1293000	699000	22951
R05000	秋田県	930000	928000	96000	484000	350000	13191
R06000	山形県	1041000	1033000	113000	566000	362000	16140
R07000	福島県	1790000	1778000	197000	1007000	586000	20858
R08000	茨城県	2840000	2767000	321000	1659000	864000	18805
R09000	栃木県	1909000	1865000	217000	1121000	672000	20269
R10000	群馬県	1913000	1890000	216000	1108000	586000	19647

SSDSE-基本素材の解説

SSDSE(教育用標準データセット: Standardized Statistical Data Set for Education)について

- SSDSE-基本素材(SSDSE-E)は、様々な分野の標準フォーマットで比較的小さいので、検索がしやすいです。
- SSDSE-Eは、SSDSE-E-2024(2024年度)のデータセットです。

データのレイアウト

縦(行数) 項目情報(3) + 全国・都道府県
横(列数) 地域情報(2) + データ項目

SSDSEの解説

別表 SSDSE-基本素材のデータ一覧

項目コード	項目名	単位	出典	更新頻度	最新年度
A1101	総人口	人	国勢調査(国勢調査)	毎年	2022
A1102	世帯人口	世帯	国勢調査(世帯調査)	毎年	2022
A1103	15歳未満人口	人	国勢調査(15歳未満人口)	毎年	2022
A1104	15-64歳人口	人	国勢調査(15-64歳人口)	毎年	2022
A1105	65歳以上人口	人	国勢調査(65歳以上人口)	毎年	2022
A1106	15歳以上人口	人	国勢調査(15歳以上人口)	毎年	2022
A1107	出生数	人	国勢調査(出生数)	毎年	2022
A1108	死亡数	人	国勢調査(死亡数)	毎年	2022
A1109	転入数	人	国勢調査(転入数)	毎年	2022
A1110	転出数	人	国勢調査(転出数)	毎年	2022
A1111	人口移動	人	国勢調査(人口移動)	毎年	2022
A1112	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1113	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1114	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1115	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1116	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1117	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1118	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1119	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022
A1120	人口移動率	%	国勢調査(人口移動率)	毎年	2022

SSDSEの御利用はこちら → <https://www.nstac.go.jp/use/literacy/ssdse/>

令和7年1月14日(火)リニューアル開講 「誰でも使える統計オープンデータ」受講者募集中



総務省統計局は、統計リテラシー向上のための取組として、「データサイエンス・オンライン講座」を開講しています。その講座の一つである「誰でも使える統計オープンデータ」を令和7年1月14日(火)に開

講します。今回、全面リニューアルを行いました。

e-Stat(政府統計の総合窓口)やjSTAT MAP(地図で見る統計)を使ったデータ分析のほか、ふだんメディアなどで耳にするGDP統計(国民経済計算)を始めとした景気判断に用いられる統計を詳しく見ていくとともに、人口・雇用・賃金等に関する統計の見方も学ぶことができます。

統計学のプロフェッショナルが分かりやすく解説する講座をあなたも受講してみませんか?

どなたでも受講登録が可能(登録料及び受講料無料)です。新しく生まれ変わった本講座を是非御受講ください。

「誰でも使える統計オープンデータ」の概要

- 開講期間 令和7年1月14日(火)～3月11日(火) 予定
- 学習時間 1回10分程度×5～7回程度(1週間)×4週
- 課題 各週の確認テストと最終課題の実施
- 講師 西内啓氏(株式会社データビークル共同創業者)ほか

週	各週のテーマ	内容
1	e-Statを使ったデータ分析	e-Statの統計データを活用したデータ分析の事例、基本的な活用方法を学ぶ(統計を仕事に活かすとは、e-Statを使った現状把握・関連要因の探索・将来の予測等)
2	公的統計データの活用①	国の経済の規模をはかるGDP統計と関連する統計の見方を学ぶ(景気判断に求められる統計、GDP統計の読み方、GDPの名目と実質等)
3	公的統計データの活用②	人口統計・労働関連統計を中心に景気判断に用いられる統計の見方を学ぶ(経済成長と人口統計、労働市場の分析、公的統計の活用(人口統計、雇用・賃金統計)等)
4	地図で見る統計(jSTAT MAP)の活用	統計データと地図を組み合わせた活用方法等を学ぶ(地図で見る統計(jSTAT MAP)の機能紹介、簡単にできるレポート作成、活用事例紹介等)

▶ 講座の流れ

講義動画

講師による説明動画でデータサイエンスを分かりやすく解説

確認テスト及び最終課題

各週の確認テストにより理解度を確認、最終課題により習熟度を確認

修了証の発行

確認テスト及び最終課題の得点率により修了証を取得



受講登録はこちらから

データサイエンス・オンライン講座
「誰でも使える統計オープンデータ」
<https://gacco.org/stat-japan3/>



10月19日(土)、20日(日)に「統計データ・グラフフェア」を開催しました

総務省政策統括官(統計制度担当)室では、「統計の日」(10月18日)の関連行事の一つとして、10月19日(土)・20日(日)の2日間、新宿駅西口広場イベントコーナー(東京都新宿区)で、総務省、東京都及び(公財)統計情報研究開発センターの共催により、「統計データ・グラフフェア」を開催しました。

会場では、統計グラフ全国コンクールの入賞作品等の展示のほか、各都道府県の魅力が分かる企画展示など、統計の大切さ、面白さを感じていただける展示を目指して準備を進めてきました。

開催に当たっては、各省及び地方公共団体など、多くの皆様の御協力を得ることで、御盛況をいただき、開催2日間で約3,700人もの方が御来場されました。御協力賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

以下、当フェアの様子について御紹介します。

統計グラフコンクール入賞作品展示コーナー

統計グラフ全国コンクールの入賞作品、東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県、統計グラフコンクールにおける入選作品の計約200作品を展示しました。

全国の小・中学生から、高校生・一般までの方々が、統計グラフを用いて作成した、様々な視点による工夫の凝らされた作品を展示しました。入選された方にも御来場いただき、作品の前で記念撮影をする姿が見られました。



(統計グラフコンクール入賞作品展示)

都道府県の企画展示コーナー

各都道府県に御協力いただき、統計データを用いた都道府県の魅力が分かる企画展示(パネル展示)や、地域の特色や観光等の様々な資料・パンフレットの配布などの広報展示を行いました。パネルの写真撮影に加え、興味を持った資料やパンフレットを手に取り持ち帰られる方が多く、「〇〇県って〇〇が名産品なのね!」といった声も聞かれました。

令和7年国勢調査紹介コーナー

令和7年10月1日の国勢調査の実施に向けて、国勢調査の紹介や、インターネット回答の体験をしてもらい、多くの方にその手軽さを感じていただきました。



(令和7年国勢調査紹介コーナーの様子)

つかってみよう!統計データコーナー

e-Statを使って日本の人口を調べたり、統計地図を作成したりするなど、コンテンツの使い方を実演形式で御紹介し、子供から大人まで統計を身近に感じていただきました。



(つかってみよう!統計データコーナーの様子)

このほか、国の機関が実施している統計に関する展示を行う「政府の統計調査紹介コーナー」、「統計の日」を紹介した「「統計の日」関連コーナー」も設置しました。

総務省政策統括官(統計制度担当)室では、これからも、国民の皆様に統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対するより一層の御協力をいただけるよう、引き続き、統計の普及・啓発活動に取り組んでまいります。

センサスくんと
みらいちゃんも
遊びに来たよ



第72回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定

総務大臣賞は、山形県立致道館中学校1年 柳沢 さくらさん の作品

1点をつないで ～サーブはどこに打つとより得点につながるのか～

【統計グラフ全国コンクール】

統計グラフ全国コンクールは、国民の皆さんに、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知っていただくとともに、統計調査への理解を深めていただくことを目的に、昭和28年から実施されています。（公財）統計情報研究開発センターが主催する第72回統計グラフ全国コンクールは、総務省、文部科学省等の関係機関が後援・協賛し、実施されました。

【審査経過】

第72回を迎える本年度は、全6部門に、全国の小・

中学生から一般の方々まで、計19,409作品に及ぶ多くの応募があり、各都道府県の統計グラフコンクールを兼ねた第1次審査、総務省職員等による第2次審査を経た後、統計グラフ全国コンクール最終審査会（審査委員長：渡辺美智子立正大学データサイエンス学部教授）において、部門別に特選6作品が決定されました。

さらに、各部の特選作品から、「総務大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「日本統計学会会長賞」、「日本品質管理学会賞」、「金丸三郎賞」及び「石橋信夫賞」を決定しました。

以下に作品を御紹介します。

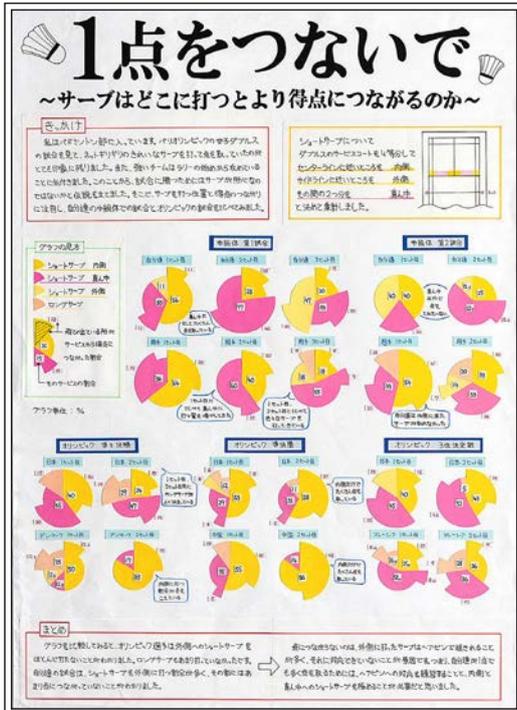
令和6年度 総務大臣賞及び文部科学大臣賞

【総務大臣賞】

1点をつないで

～サーブはどこに打つとより得点につながるのか～

〔第4部（中学生の生徒）特選作品〕

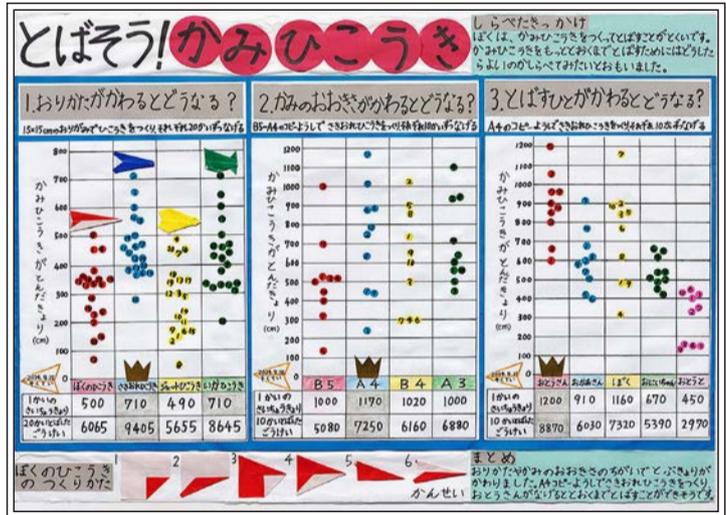


山形県立致道館中学校1年
柳沢 さくらさん

【文部科学大臣賞】

とばそう! かみひこうき

〔第1部（小学校1・2年生の児童）特選作品〕



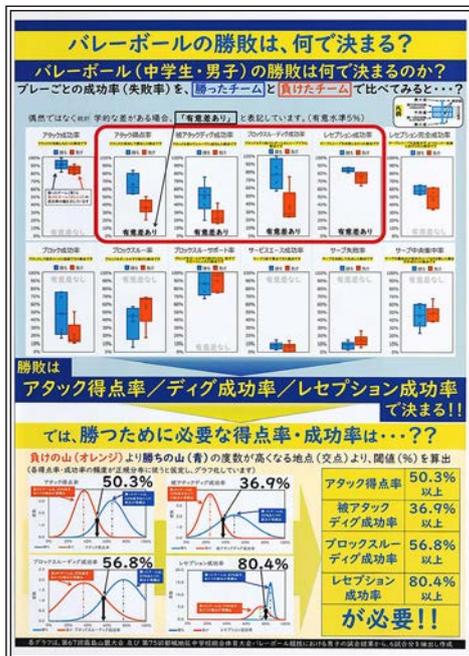
富山県砺波市立砺波東部小学校1年
桑田 知寛さん

特別賞受賞作品

【日本統計学会会長賞】

バレーボールの勝敗は、何で決まる？

〔第6部(高校生以上(手書き・パソコン利用不問)特選作品)〕



宮崎県
田中 満雄さん

【金丸三郎賞】

セミのぬけがら調べ パート3

〔第5部(小中学生のパソコン統計グラフ)特選作品)〕



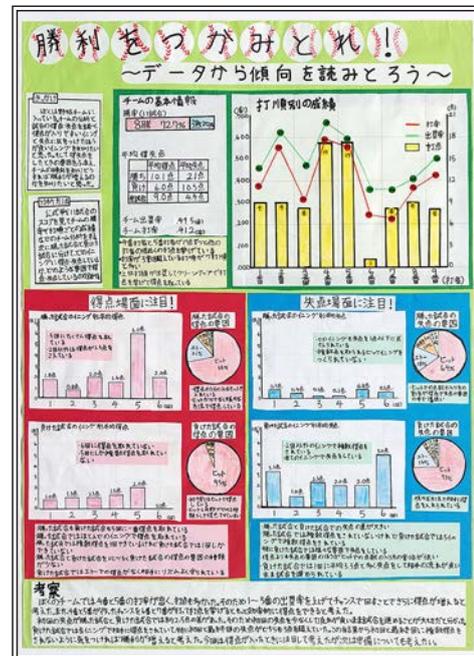
富山県富山市立針原小学校5年
飯野 巽さん

【日本品質管理学会賞】

勝利をつかみとれ!

～データから傾向を読みとろう～

〔第3部(小学校5・6年生の児童)特選作品)〕



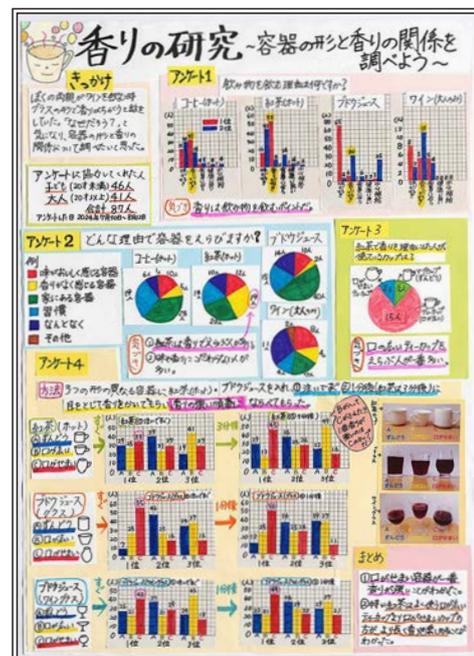
新潟大学附属長岡小学校6年
新保 拓也さん

【石橋信夫賞】

香りの研究

～容器の形と香りの関係を調べよう～

〔第2部(小学校3・4年生の児童)特選作品)〕



徳島県藍住町立藍住北小学校3年
宮本 真聡さん

Data StaRt Award

～第9回地方公共団体における統計データ利活用表彰～受賞団体の決定

総務省統計データ利活用センターでは、客観的な統計データに基づく確かつ効率的な行政運営を促進する観点から、地方公共団体における統計データの利活用を推進することを目的として、統計データを利活用した優れた取組を進める地方公共団体に対し、表彰を行っています。

令和6年度に実施した第9回の総務大臣賞、統計局長賞及び特別賞は、次のとおりです。

【総務大臣賞：高知県】IoP（Internet of Plants）が導く「Society5.0型農業」への進化

- ✓ 産学官連携により、毎日の営農に必要な様々なデータや情報を一元的に集約・共有・活用できるデータ連携基盤「IoPクラウド（SAWACHI）」を構築した。現在、既に1,420戸を超える農家が、SAWACHIを活用して「もっと楽しく、もっと楽に、もっと儲かる農業」を実践している。



【統計局長賞：宮城県 仙台市】消防×医療機関の緊密かつ強固な連携体制の構築

～EBPMの推進による限られた医療資源の有効活用を目指して～

- ✓ データの利活用により救急医療の課題を顕在化・見える化、エビデンスに基づいた実効性のある意思決定・施策を推進し、限りある医療資源の有効活用を目指したことで、消防と医療機関が相互に協力し合う関係性を醸成した。



【特別賞：栃木県 宇都宮市】ヒヤリハットデータを活用した地域参加型交通安全対策事業

- ✓ 地域住民参加によるカープローブデータ（急ブレーキ、急加速、急ハンドル、速度超過）を収集し、得られたヒヤリハットデータと交通事故発生データの統計分析から潜在的な危険箇所の抽出、マップへの可視化を行い、地域主体の「まち歩き（危険箇所の現地確認）」や「対策検討会」を実施した。

【特別賞：栃木県 真岡市】デジタルマーケティングの習得とシティプロモーションの実践

- ✓ ふるさと納税の返礼品であるいちごのプロモーションをデジタルツールで展開するに当たり、全てのデジタルツールの発信結果を集約・分析できるダッシュボードを構築。得られたデータを基に、HPやSNSの掲載内容や投稿内容を改善し、デジタル広告のターゲットに対する伝え方を改善した。

【特別賞：岐阜県 関市】予測モデルを根拠とした子ども福祉医療費助成年齢要件の検討

- ✓ 子育て世帯へのより充実した支援のために、市内の子ども福祉医療費助成における年齢要件の引上げを検討することとなり、市独自で算出した人口推計に、助成額予測係数を掛け合わせ年齢要件を引き上げた場合の予測モデルを作成し、政策検討の根拠データとした。

本表彰事業及び受賞取組の概要については、下記のウェブサイトを御覧ください。

【Data StaRt Award～地方公共団体における統計データ利活用表彰～（事業紹介）】

<https://www.stat.go.jp/info/guide/rikatsuyou/index.html>

【Data StaRt Award～第9回地方公共団体における統計データ利活用表彰～（受賞取組の概要）】

https://www.stat.go.jp/guide/public/rikatsuyou/pdf/ho241018_ref.pdf

「地方自治情報化推進フェア」及び「CEATEC 2024」に出展しました!

総務省統計局及び(独)統計センターは、令和6年10月9日(水)～10日(木)に幕張メッセで開催された「地方自治情報化推進フェア」に、また、10月15日(火)～18日(金)に同じく幕張メッセで開催された「CEATEC 2024」にブースを出展し、「政府統計の総合窓口(e-Stat)」等の普及を促進するため、広報活動を行いました。

各イベントでは、ブースの来場者に対して、まずは「①e-Statを知ってもらう」、次に「②使い方を理解してもらう」という2つの目的の下、パソコン等を用いて「政府統計の総合窓口(e-Stat)」や「地図で見る統計(jSTAT MAP)」の機能を紹介するデモンストレーションを行ったほか、プロモーション動画の放映、「e-Stat」及び「jSTAT MAP」のリーフレット、活用



▲各イベント会場のブース模様

マニュアル、「SSDSE(教育用標準データセット)」のリーフレットの配布等を行いました。

特に、非常に多くの来場者を迎えた「CEATEC 2024」においては、自治行政局、情報流通行政局とも連携し、「デジタル田園都市国家構想」の一部として出展することで、従来の来場者層と比較し、より幅広い来場者に対して広報を実施することができました。また、長藤統計利用推進研究官による講演等も行い、「無料でこんな便利なシステムがあることを知らなかった!」などの声をいただくことができました。

今後も展示会への出展、講演等の活動を通じて、「政府統計の総合窓口(e-Stat)」を始めとした統計データの利活用を積極的に推進していきます。



▲長藤統計利用推進研究官による特別講演

令和6年度統計研修受講記

令和6年度「指数に関する研修－鉱工業指数を中心に－」を受講して

佐賀県政策部統計分析課 重信 光一

私は鉱工業指数を担当して3年目になり、月報の作成、年間補正及び年報の作成、基準改定という、鉱工業指数における業務は一通り経験いたしました。そのため、鉱工業指数についてはおおむね理解していると思っていましたが、一通り経験した今だからこそ、改めて学ぶチャンスと思い、本研修の受講を希望いたしました。

本研修は、「作成者側」と「利用者側」の2つの視点から講義いただいたと感じました。作成者側の視点からは、「指数の概要」、「鉱工業指数の構造・作成方法」、「鉱工業指数の分析グラフ作成演習」、「鉱工業指数の利用・分析」について、経済産業省の講師の方々より講義いただきました。利用者側の視点からは、「鉱工業指数の見方・使い方」について、野村證券株式会社の講師の方に講義いただきました。

「指数の概要」では、そもそも指数とは何かを学び、指数の見方や使い方について一通り学んだ後、鉱工業指数の概要について学びました。指数化することで、時系列比較が容易になり、異なる単位でも集計・比較ができるという利点を改めて学びました。

「鉱工業指数の構造・作成方法」では、生産・出荷・在庫等の各指数を振り返り、デフレータや季節調整等の指数作成の工程を学び、毎年行う年間補正や5年ごとに行う基準改定について学びました。特に基準改定は、当県では本研修の数か月前に完了・公表した内容だったの

で、作業の意味を実感しながら学ぶことができました。

「鉱工業指数の分析グラフ作成演習」では、演習を通じて、様々な指数や寄与度、上昇率等の算出を行いました。その中で、在庫循環図の作成演習がありましたが、実際に作成するのは初めてだったので、大変勉強になりました。

「鉱工業指数の利用・分析」では、鉱工業指数の公表種類や景気動向等の分析、他統計と組み合わせた指数の再編成について学びました。普段は主に指数を作成する立場なので、利用・分析についてはやや難しく感じましたが、表やグラフで可視化していただけていたので、イメージをつかむことができました。

「鉱工業指数の見方・使い方」では、鉱工業指数における景気指標との関連性や、GDP等の経済指標から見た経済構造、経済予測のヒントとなる各種指標等について学びました。特に、経済統計を見る際の留意点として、ウラヤゲタといった数字のトリックについて学びましたが、鉱工業指数を作成する立場として、数字のトリックを見抜く力が不可欠と感じました。

最後に、2日間の研修を通じて、分かりやすく講義いただいた講師の方々を始め、対面・オンラインの両環境を整備いただき、寮への宿泊や研修内容の配信についても御配慮いただいた統計研究研修所の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

最近の数字

	人口		労働・賃金			産業			家計(二人以上の世帯)		物価	
	総人口 (推計による人口)		就業者数	完全失業率 (季節調整値)	現金給与総額 (規模5人以上)	鉱工業 生産指数 (季節調整値)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数		
	千人(Pは万人)		万人	%	円	2020=100	兆円	円	円	全国	東京都区部	
実数	2024. 6	123979	6822	2.5	498,887	100.0	33.9	280,888	813,616	108.2	107.5	
	7	P 12396	6795	2.7	403,090	103.1	P 33.6	290,931	568,191	108.6	107.8	
	8	P 12385	6815	2.5	296,154	99.7	P 33.0	297,487	482,029	109.1	108.4	
	9	P 12378	6814	2.4	291,712	101.3	P 35.0	287,963	402,605	108.9	108.1	
	10	P 12379	6813	2.5	P 293,401	P 104.3	...	305,819	484,600	109.5	108.8	
	11	P 12379	P 109.3	...
前年同月比	2024. 6	-	0.5	* -0.1	4.5	* -4.2	2.3	-1.4	8.5	2.8	2.3	
	7	-	0.3	* 0.2	3.4	* 3.1	P 4.0	0.1	7.3	2.8	2.2	
	8	-	0.6	* -0.2	2.8	* -3.3	P 2.4	-1.9	3.7	3.0	2.6	
	9	-	0.4	* -0.1	2.5	* 1.6	P 2.0	-1.1	-1.8	2.5	2.1	
	10	-	0.6	* 0.1	P 2.6	*P 3.0	-	-1.3	1.9	2.3	1.8	
	11	-	0.6	* 0.1	P 2.6	*P 3.0	-	-1.3	1.9	2.3	1.8	

(注) P：速報値 *：対前月
家計(二人以上の世帯)の前年同月比は実質値

掲示板 統計関係の主要日程 (2024年12月~2025年1月)

《会議及び研修関係等》

時期	概要	時期	概要
12月4日	第72回全国統計大会	1月下旬	オンライン統計研修【第4回】統計取扱業務担当職員向け研修「初めて学ぶ統計」開講(～2月下旬)
11日	登録調査員中央研修	〃	オンライン統計研修【第4回】統計実務職員(統計データアナリスト補)研修「統計利用の基本」開講(～2月下旬)
〃	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー【第1回】【ライブ配信】	〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「政策立案と統計」開講(～2月下旬)
17日	地域分析コース「地域分析」開講【集合】(～20日)	〃	オンライン統計研修【第4回】統計作成実務コース「国民・県民経済計算」開講(～2月下旬)
1月21日	事例から学ぶ ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー【第2回】【ライブ配信】	〃	
下旬	マイクロデータコース「マイクロデータ分析-Rによる統計解析-」開講【集合】		

《調査結果の公表関係》

時期	概要	時期	概要
12月6日	家計調査(家計収支編：2024年10月分)公表	1月24日	消費者物価指数(全国：2024年12月分及び2024年平均)公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2024年10月分)公表	〃	小売物価統計調査(全国：2024年12月分)公表
〃	消費動向指数(CTI)2024年10月分公表	〃	家計調査(貯蓄・負債編：2024年7～9月期平均)公表
〃	小売物価統計調査(ガソリン)2024年11月分公表	31日	労働力調査(基本集計)2024年12月分、2024年10～12月期平均及び2024年平均公表
13日	2024年科学技術研究調査結果公表	〃	消費者物価指数(東京都区部：2025年1月分(中旬速報値))公表
20日	消費者物価指数(全国：2024年11月分)公表	〃	小売物価統計調査(東京都区部：2025年1月分)公表
〃	小売物価統計調査(全国：2024年11月分)公表	〃	サービス産業動向調査(2024年11月分速報及び2024年8月分確報)公表
〃	人口推計(2024年7月1日現在確定値及び2024年12月1日現在概算値)公表	下旬	人口推計(2024年8月1日現在確定値及び2025年1月1日現在概算値)公表
25日	経済構造実態調査(2023年四次集計結果)公表	〃	住民基本台帳人口移動報告(2024年12月分)公表
26日	住民基本台帳人口移動報告(2024年11月分)公表	〃	住民基本台帳人口移動報告(2024年結果)公表
27日	労働力調査(基本集計)2024年11月分公表	〃	令和5年住宅・土地統計調査(住宅の構造等に関する集計)公表
〃	消費者物価指数(東京都区部：2024年12月分(中旬速報値)及び2024年平均(速報値))公表		
〃	小売物価統計調査(東京都区部：2024年12月分)公表		
〃	サービス産業動向調査(2024年10月分速報及び2024年7月分確報)公表		
31日	統計トピックス「已年生まれ」と「新成人」の人口 -令和7年 新年にちなんで-公表		
1月10日	家計調査(家計収支編：2024年11月分)公表		
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2024年11月分)公表		
〃	消費動向指数(CTI)2024年11月分公表		
〃	小売物価統計調査(ガソリン)2024年12月分公表		

編集発行 **総務省統計局**

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

総務省統計局 統計情報利用推進課 情報提供第一係

TEL 03-5273-1160 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp

ホームページ <https://www.stat.go.jp/>

御意見・御感想をお待ちしております。